

昭和十九年九月頃迄主力ハ「ガバオ」一部ハ「スリカオ」「カガマ」「サンホ」の
附近ニ在リシガ各敵ノ上陸ニ當リ其附近ニ於テ防禦戦斗ニ從事ス
令部中數十指揮ニ任スル一部ハ昭和十九年十一月「バナイ」島ニ至リ輸
送ヲ命ゼレ敵其附近ニ上陸スルニ當リ轉戦終戦時「ネグロス」島
西部ニ在リキ

八十五揚陸隊（鈴木文雄部隊）

主力ハ「カガマ」附近ニ在リテ揚陸及防禦ニ任ジ一部ハ「タクロバン」
及「バナイ」島イロク附近ニ在リ戦斗ニ從事ス
此ノ部隊主力ハ現在ニ於テハ鈴木中佐以下山中ニ在リ通信未
来ス出テ来ラス

資料ニシテモ

出征軍人留守宅間各資料第ニモ

昭二二三ニ
次世資復

沖繩 水笠原 方面一般状況
南方 濠 北

本資料ハ主トシテ第二復員省ノ艦船運航関係方面ヨリ入手セ
ル情報（二月下旬頃ニ於ケル）ヲ整理セルモノナルモ参考ノ爲配
布ス

6

第一沖繩及小笠原方面之狀況

一 沖繩

一、各島引揚終了、現在沖繩本島ニシテ残留シタルモ陸海合ヒテ約一、
各其詳細不明ナリ終戰前投降セル者ニシテガムニ送致サレタルモノナリ
二、他島ヨリ沖繩島ニ移駐セル者次ノ如シ

宮古島ヨリ海軍官曹島警備隊司令以下陸海軍人二九〇四名

石垣島ヨリ沖繩島出身者及灣出身者ヲ合ム特ニ指定サレタル陸海
軍人四八名現地滿期者ニ〇名及陸軍小工勤務中隊員九〇八名

計一五六六名 合計四四七〇

二 小笠原

一、父島残留者

陸軍之花井中將以下二十數名

海軍森

中將以下十八名

民間ナシ

(一) 佛 印
(二) 素

ガラン島 (「マヤワ」ヨリ集結豫定)

「マライ」半島

但シ還送船ハ現在「シンガポール」ヨ基點トシテ行動シアルヲ以ツテ内地還送ノ初回ハ「マライ」方面ナリ日本人ヲ優先トス尚上記ノ順位ニ基キ還送セシムルモ二回ハ「レバ」島方面ヨリ還送セシム

2. 南西方面ニ於ケル既備計畫ハ聯合軍側ニテ立案中ニシテ英軍モ二十年末ヲ待タズシテ早期ニ完結ヲ希望シタル旨表明セリ

3. 南方面日本人在留等ニ関スル件

(一) 馬來ニ関シテハ一月二十日從來指令ニ定ムラス日本人ノ在留ヲ許サル旨指令アリ

(二) シヤワ島ニ於テハ一月三十一日英印軍ニテ師團ヨリ戦前ヨリ南方ニ在留シ

アル日本兵留民ハ在留地政府ノ反対ナキ限り戦前在留シアリシ國ニ準テ留ヲ許シテラレコトアルベキ事ニ定ムラレタル旨指令アリ

(三) 一月下旬東南亞細亞聯合軍最高司令官及在「モロタイ」濠洲軍最高司令官對シ日本人ニシテ南方ニ在留シテ居ルモノニ對シ之ガ許可セラレタル場合

資格條件成ルベク寛大ニセラレ度旨申請セリ回答ハ未受領

四 各地邦人中待ニ戦前ヨリ在留シ関戦際ニ歸國セザリシ如キ者中六在留ヲ希望者少ナカラス

二 佛 印

北部佛印

十六度以北ノ佛印ハ甲國軍據當ニシテ日本軍ハ「ハイフオン」地区ニ兵カヲ集結販還準備中ナリ

2. 南佛印指道ヲ權ハ概テ英軍ヨリ佛軍ニ移リツテ同方面二月末ニ於ケル集結状況ヲ如シ

「サンジャック」地区 三八二〇〇
西貢 一八一三六 外邦人約四〇〇〇

「ツドック」(海軍) 五〇〇四

「ラッド」其他 約三〇〇〇

計 六八三四〇

残留者ハ戦仁關係證人トシテ残留セシムラレタル者ニシテ六月頃歸還ト
現地ニ於テ公觀側セラレアリ

2. 戦仁容疑者

陸軍ハ師團長之花中將以下四名容疑者トシテ抑留セラレアリ

3. 其^レ他

當初米海兵約六〇〇進駐シテリシガ漸次縮少シテアリ食糧ハ極メテ
余裕アリ米軍ノ待遇極メテ良好

第二 南方及豪北方面ノ状況

一 全般

ノ南西方面ニ於ケル遺送ノ順位ハ次ノ如ク英軍ヨリ指示セラレ

(一) ボルネオ (二) ラバアン方面ヨリ開始ス (三) 豪北 (四) セレベス (五) ホスング (六) シ会

(一) 佛 印

(二) 素

(三) ビルマ

ガラン島 (二) マライノ大部 (三) スマトラ (四) アングマン (五) ニビルヨリ集結)

ガラン島 (二) マヤワヨリ集結豫定)

給付表(日本車係)有糧秣及自活(定量)併合車より指定(レトリ)ヲ主トシ
生料品一部ハ所合車ヨリ交付ヲ受ケアリカヨリ「一般二六八五重労働者
二五三〇ヤリ

此方面入院患者ハ〇セ%ニシテ月中ニ於ケル新発症生卒ハ二二%
「マラリヤ」脚氣患者多クシ肺合車ニ差出ス又燃務者ハ約六〇〇〇名ニシテ
主トシテ荷役道路補修鐵道關係ニ從事シアリ

三「ビルマ」

ノ集結状況(一月末森林ノ報告ニヨル)

一「サルウイン」河以西地区ノ詳細不明ナルモ概要互ノ如シ

「ラングーン」東北地区 一一〇〇〇〇

「モルメイン」西北地区 二八〇〇〇

「モルメイン」(含シ)南方地区 二六〇〇〇

「タボノ」ノルギー地区 三四〇〇

計 六八四〇〇